

やまがた (No48)
森林・山村活性化通信

やまがた森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会
(公財)やまがた森林と緑の推進機構
〒990-2363 山形市大字長谷堂字馬場 2265
TEL.023-688-6633 FAX.023-688-6634
E-mail : okuyamat@ymidori.or.jp

- 1 令和7年度 地域協議会委員現地検討会の開催
- 2 令和7年度 安全・技術研修会のご案内
- 3 令和8年度林野庁事業案について（概算要求資料より）



1 令和7年度 地域協議会委員現地検討会の開催

10月24日(金)、南陽市宮内地内「内原里山保全を楽しむ会」(以下「内原の会」と米沢市南原新町地区「夢ある里山保存会」(以下「夢ある会」)の活動現地に赴いて、当事業の大隅アドバイザーも交えて、地域協議会委員による現地検討会を開催しました。

内原の会、夢ある会共に、作業道の整備を進めながら、かつて親しんだ地元の里山林の豊かさを取り戻し、次代につなぐべく、前年度までの活動計画を承継しつつ、今年度は「地域活動型(森林資源活用)」(内原の会:0.5ha、夢ある会:1.5ha)と、「森林機能強化(作業道)」などの活動を行っています。当日は、委員5名と大隅アドバイザー、各活動組織メンバーを合わせ13名が参加され、内原の会 渋谷代表、夢ある会 青木代表から活動のきっかけや経過について直接ご説明いただきながら、現場を踏査・視察の上、活動全般にわたる検討がなされました。



左：内原里山保全を楽しむ会 現地

右：夢ある里山保存会 現地

天候にも恵まれ、どちらの活動地も明るく、清々しい里山林として整備されている印象。委員のお言葉を借りれば「人が入れる森づくり」に頑張っておられる両組織の活動は好評でした。内原の会については、昨年の山火事の際、同会の整備した作業道が消火作業に役立ったとの話、夢ある会についても、林地整備によって日当たり・景観改善や害獣忌避の効果から地域の方より感謝されているとのうれしい話もお聞きできました。

参加の委員よりは、現場でのご発言と、現場視察後に南原コミュニティセンターで行ったふりかえりの座談の中で、現地に残っている焼損木や、活動箇所を印したテープを取り去ることで整備した里山林の姿が一層映えるであろうことや、現場を流れる渓流や沿道にある池が良く見えるように周囲の灌木を整理すると人々の立ち寄り先、行き先としての魅力が増すのではないか、広葉樹林として育てていくに当たっては目指す利活用の姿を明確にし、萌芽更新の進み具合も見ながら省力的な方法をとるべき、刈払機・チェーンソーの作業安全確保には十分注意してほしい、などのご助言・ご提案をいただきました。また、機材の整備に当たっては、各組織の活動規模にマッチした（経費的にも合理的な）台数、能力がどれ位であるか慎重に検討した上で導入を計画すべきとの、事務局にとっても重い指摘も受けたところです。質疑の中では、本交付金のヘクタール単価の設定（森林資源活用と竹林資源活用との差異）や、登記簿地目が農地である里山林における活動要件などが話題となり、各組織と委員・事務局との有意な対話の機会となりました。

さらに、当日は、ご参加いただいた黒田三佳委員に急遽お願いし、特色ある諸活動で子育て、食育、教育等広い分野から注目される同委員の「里山ビジョンハウス」にも立ち寄らせていただきました。短い時間でしたが、楽しい活動が展開できるよう整えられた里山林を視察させてもらい、参加者皆の見聞を深める機会となり、改めて伺わせていただく良い契機になったと思いますので、併せてご報告いたします。

この紙面をお借りして、当現地検討会の開催につき、貴重なお時間を割いていただき、ご協力、ご参加いただきました皆様に改めて感謝申し上げます。



「里山ビジョンハウス」の裏手に広がる森の活動のフィールド。

焚火のできるサークルやピザ窯、屋外で勉強したり、くつろげる建屋などが整っていました。

元々は、旧米沢藩に仕えた武士が、当時屋敷周りの農地、林地として日々の暮らしのため活用していた土地と伺いました。

2 令和7年度 安全・技術研修会のご案内

さきに各活動組織にご案内を差し上げているところですが、里山保全・利活用の活動における作業安全の確保とさらなる技術向上に資する取組みとして、今年度の活動組織メンバーを対象に、チェーンソー等の操作、伐倒技術に関する研修を行います。

ご多忙の折とは存じますが、各活動組織から多数の参加をお願いします。（参加は無料です）

日 時： 11月5日（水） 13:30～15:30

場 所： 西川町沼山地内 県森林研究研修センター 試験実習林

（集合場所：交流センターあいべ 駐車場

西川町間沢280 TEL0237-74-3131）

講 師： 山形地方森林組合 業務課長 半田 泉さん

持ち物： 参加の際は、普段お使いのチェーンソー

道具一式（防護衣等含）をご持参ください。

申込み： 当機構の担当者 多田に、電話等で直ちに
お知らせ願います。



伐倒練習機での模擬作業イメージ

3 令和8年度林野庁事業案について（概算要求資料より）

8月末に林野庁関係の令和8年度予算概算要求の概要が公表され、次年度に向けても見直し検討が行われることが明らかになりました。（別添参照）

9月初めに林野庁担当者が各地域協議会に対しその概要説明を行いましたが、財務省との折衝前とのことで、今のところ分かっていることは、以下のとおりです。

来年度における活動計画樹立に向け、詳細が分かり次第、情報提供いたします。

○「里山林活性化による多面的機能発揮対策」

概算要求額 R7：951百万円 → R8：1087百万円 (R7比114%)

○拡充ポイント

「複業実践型」の対象に広葉樹林を追加（明確に位置付け）

（針葉樹林向けと広葉樹林向けの2つのメニューとして要求）

※採択要件の詳細については、同庁担当課の案としても、これまで説明・公表なし。

（その他の変更）

山村振興法に基づく「山村振興計画」に里山林の保全活動が位置付けられている場合、当対策において優先的に採択できる運用を追加

出典：林野庁サイト <https://www.rinya.maff.go.jp/j/rinsei/yosankesan/R8gaisan.html>

＜対策のポイント＞

森業の振興などを通じた山村集落の維持・活性化を図り、森林の多面的機能の発揮を確保するため、事業体による経営管理がされにくい、地域の身近な里山林の整備・活用に取り組む活動組織の確保・育成、「半林半X」※も含めた活動の実践を支援します。

※「半林半X」とは、他の仕事でも収入を得ながら、アイデアと技術を活かして、地域の森林資源から林業収入を得ることにより生計を立てるライフスタイル。

＜事業目標＞

5年以上継続的に活動している活動組織の割合（70% [令和11年度]）

＜事業の内容＞

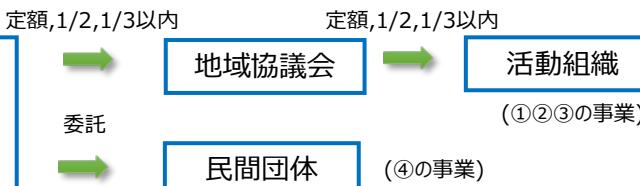
里山林活性化による多面的機能発揮対策

森業の振興などによる山村集落の維持・活性化や、森林の多面的機能の発揮に向けて、林業事業体による経営管理がされにくい里山林の整備を促進するため、

- ① 地域協議会が行う活動組織の確保・育成に向けた 説明会・体験会の開催、安全な作業技術の習得の支援
- ② 集落活動等として、集落周辺の里山林を活用する取組の支援
- ③ 「半林半X」等を含め、点在する森林資源（針葉樹、広葉樹）を本格活用する取組の支援
- ④ 活動組織の活動成果の評価検証等

を実施します。

＜事業の流れ＞



＜事業イメージ＞

確保
育成

実践

- 里山林の整備・活用に関心のある地域住民等に対して、説明会や活動体験会を開催
- 里山林の整備・活用の実践に取り組む活動組織に対する安全対策や施業技術等に関する講習等の実施
- 活動組織が行う里山林の整備・活用の実践支援

地域活動型



地域住民等が連携し森林資源を活用する活動への支援

最大12.0万円/ha



地域住民等が連携し竹林資源を活用する活動への支援

最大33.2万円/ha

複業実践型



半林半X等により本格的に針葉樹を活用する活動への支援

最大19.1万円/ha



半林半X等により本格的に広葉樹を活用する活動への支援

最大24.1万円/ha

上記活動に必要となる路網の作設・改修、資機材の整備、地域外関係者の受入環境整備・調整等への支援、アドバイザーの派遣等による活動サポート

